

## 新座で願う。大和田を歩く。

“木を見て森を見ず”ならぬ、“森を見て木を見ず”。全体は見えているものの、その内側は見えていないという意味だ。新座はまさにそんな場所。多くの文化財やのどかな街並みがある場所だということは知っていた。でも正直…正直に言うと、一つ一つをきちんと見たことはなかったし、それらに対して私は高を括っていました。ごめんなさい。

私がそう反省するきっかけになったのは、言わずと知れた名所「平林寺」だった。ただし、これはきっかけに過ぎない。私が新座に「おお・・・」と感嘆のため息を漏らしたのは、大和田という場所を訪れたからだ。

ここで少し位置関係を整理しよう。新座市は、埼玉県南部にある人口約16万人以上の市である。その中の大和田は、平林寺とは逆方向の新座駅北口からまっすぐ1キロ弱にある地区だ。

さて、大和田地区を奥へ奥へと進むと、住宅街の屋根の合間にひょっこり背の高い木が見えてくる。その木の方向へ吸い寄せられるように近づくと、巖かで凜とした佇まいのお寺が現れる。「普光明寺」だ。歴史は古く、大同元年（806年）に開かれたと言われている。境内にはあの源頼朝が奉納したとされる千体地藏堂があり、33年ごとに開帳されるそう。あなどるなかれ、敷地はとても広い。その堂々とした姿に、寺社好きの私は魅了された。どっしりとした門構えは、まるで入ろうとする者に心を正せと言っているようだ。一礼して足を踏み入れると、右手に大きな梵鐘（いわゆる除夜の鐘）、正面にはさらに拝殿へと続く門がある。私は最近、神様に手を合わせる時はお礼8割、お願い事2割をするようにしてからすこぶる調子が良い。「素敵なお場所に導いてくださって、ありがとうございます。」普光明寺でもそう手を合わせ、静かに目を閉じた。

ここで忘れてはいけないのが、鎌倉道と氷川神社の存在だ。普光明寺の脇を通る鎌倉道を少し歩くとすぐに「大和田氷川神社」がある。新座最古の寺社の一つだそう。入口には鳥居が3つ。礼をしてくぐると、左手には無形文化財の大和田囃子で使用されるやぐらがあって、正面には拝殿がある。これもまたあなどるなかれ。ここはとっても神聖な場所なのだ。大和田氷川神社は、なんと30ほどの神社が集まっているのだという。拝殿も氷川神社のもの以外にいくつかある。氷川神社は縁結びの御利益があるとして有名だが、30もの神社が集まるとなれば、ご利益はそれだけに留まらないだろう。ただ、私のように下心満載で訪れてしまっただけでは、ご利益も望めないのでご注意ください。

さあ、「森を見て木を見ず」の意味が少し分かっていただけたらだろうか。一つ一つの素晴らしい文化財やのどかな街並みという木々によって、新座という大きな森ができています。木を見て森を知ったときから、新座はとてつもない、それでいて親しみやすいパワースポットになる。パワーを持つ木々が点在することで、森全体が強力なパワーを内に秘めるのだ。そのパワーがまた新たな木を生み出し、住む人や訪れる人にもパワーを与えることだろう。

新座に住んで3年目。私が見つけた新座は、見えないパワーを秘めた、素敵なお森だった。